

# 高尾山報

令和5年2月号

御来光を仰ぎ一年の平穏を祈る



書院 松の間にて記念撮影する佐藤貫首と内局の皆様

總本山智積院  
内局御一行  
年賀に來山

去る一月十八日、真言宗智山派総本山智積院より、芙蓉良英宗務総長をはじめとし、三神栄法務部長、山川弘巳教学部長、服部融亮教化部長、大森真弘法務部長、日下敞啓財務部長、倉田隆伸宗務出張所長の皆さまが来山されました。

御一行は、到着後大本堂でご法要をお勤めされ、山内僧侶・職員の出迎えを受け、佐藤貫首と当山書院・松の間にて新年のご挨拶を交わされ、しばし歓談の後に下山されました。

るのでしよう。こうしたお姿は、真言宗を開かれた弘法大師空海（七七四～八三三五）にまで遡ることができます。お大師さまが作られた漢詩や書道の達人としての逸話なども、たゆまぬ日々の研鑽によるものでしよう。お大師さまは、多くのお手本を後世の私たちに示されました。先月号では、日本の聖地を求めるために、手に持つた三鉛杵（仏具）を虚空へと投じたところまでを読みました。果たしてそれは、はるばる海を飛び越えて、日本のどこに辿り着いたのでしょうか。『今昔物語集』の空海伝には次のように語られています。

は、顔は赤く背丈は八尺ほど(二四一セントほど)で、青色の小袖を着た、筋たくましい姿でした。弓矢を身につけ、大小二匹の黒犬を引き連れていました。

その男はすれ違い様に「そこを歩かれている聖人はどこに行かれるのですか」と尋ねます。

私は唐から二鉢を投げて『禅定の靈窟(心安まる靈妙な地)に落ちよ』と祈願しました。今はその土地を探し求めているのです」と答えると、私は南山(高野山)の犬飼獵師です。そのような場所を知つてはいるので、すぐにお教えしましょう」と語って、犬を放ち走らせたのでした。

いていたお大師さまでしたが、誓いを込めて投げた三鉢杵のことを忘れてはいませんでした。年を重ねてから遠歩きは、若き日の願いが叶えられたのかを一步一歩確認するための、答え合わせの旅路だったのかもしれません。

季節は寒中を過ぎて、少ししづつではあります  
が春のきざしを感じるようになつてきました。

うか  
人間と同じように、動植物も春の訪れを待ち望んでいるでしよう。気温の上昇とともに、草木もすいぶんと芽吹いてきました。中國の書物「詩經」に「幽谷を出でて喬木に遷る」(鳥が深い谷から出て高い木に飛び移る)といふ言葉があるように、春の訪れを告げる鶯も、谷間から里へとやつて来て、可愛らしい初音を聞かせてくれるでしょう。

こうした春の息吹を愛てる気持ちは、昔の人々とも同じです。例えば、今から三五〇年ほど遡る江戸時代の寛文十一年(一六七〇年に開催された和漢聯句の会を見てみます。真言宗智山派総本山智積院の第七世でもある運敏僧正(一六一四

【連歌合集】より。	泄春鶯出谷	智積院權僧正
雪のうちより	しろき梅が香	ゆき
月寒哉重賞	後西上皇	月
靄旅況幽望	太華	寒
朝なぎに	顕令	哉
波のうら舟	この会では、まづ運敵	重賞
漕はなれ	照高院宮	雪のうちより
千潟もみえて	僧正(智積院權僧正)が	月
はるる塩風	「春を泄して鶯谷を出づ」と発句(最初の第一句)を詠んでいます。これは、先に挙げた「うぐひすの」の和歌のような、鶯が谷から飛び立つ春景色です。この句を受けて、次の	寒

和句で連ねました。また、東福寺しま  
二四一世太華和重賞と月は寒噉の  
世顯令和尚は中月を譽め称え建  
仁寺三〇六和尚は  
（？）一六八  
二は「靄は旅况の幽望」と旅  
の景色を、やはり漢句で  
覚寺宮（性真入道親王）  
一六三九（一六九六）は  
「朝なぎに波のうら舟漕  
はなれ」と風が吹き止ん  
だ一時に春霞を隔てて漕  
ぎ行く舟を詠じ、照高院  
宮（道晃入道親王）一六  
二（一六七九）は「干潟  
もみててはるる塩風」と  
再び吹き始めた海風に

ここには、春のさまざまな表情が切り取られています。連想によつて次々と和句と漢句を織り交ぜていく和漢聯句を、は、当然ながら先人の和歌や漢詩に精通していなければ成立しません。これら六名による聯句は、深い教養から生み出された春の情景と言え



雪中の梅からも春を感じる

法の水茎  
(128)

高橋秀城

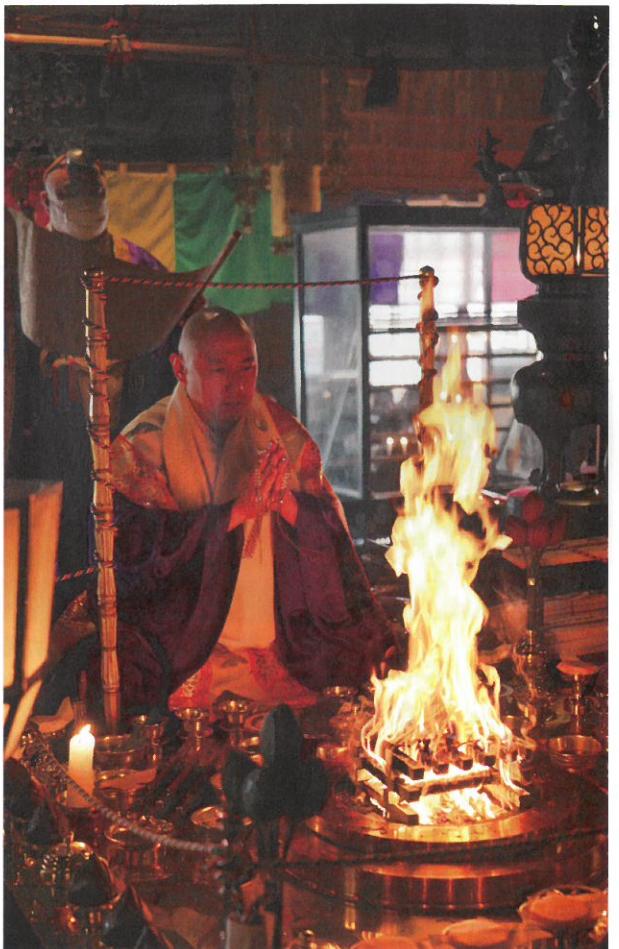
「一六九二」という学匠がくきょうは、時の後西上皇ごせいじょうのう（一六三八いっさんぱ）に招かれ、まねて、数名すうめいの僧侶そうりょとともに次つぎのような句くを詠よみ合いました（国会図書館こっかいとしょかん蔵ざらう『連歌合集れんかあしゅう』より）。



能楽師の山中透晶師による奉納舞



今年は大吉ね、うれしいわ



一心に祈念する佐藤貫首



大本堂内外では初詣に訪れた皆様が諸願成就を願い一心にお祈りする



一年の幸福を願い

# 新春に祈る 高尾山初詣

令和五年 癸卯(みずのとう)



境内で行われた迎光祭では参詣の皆様と共に初日の出を祝う

未だコロナウイルスによる感染症流行終息への先行きが見えない情勢ではあります。お正月の高尾山には、全国各地から皆様が御参詣に訪れ、御本尊様との御縁を深められておりました。

元日の明け方には、昨年に引き続き境内地広庭に祈祷所を設け、参拝の皆様と共に初日の出を祝う、「迎光祭」を執り行いました。幸いなことに好天に恵まれて晴れ渡り、美しい御来光を拝すことができました。

一般告知しております

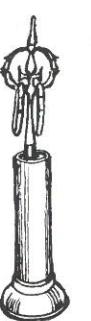
た大本堂では、二年参りに訪れた大勢の御信徒の方々をお迎えして、佐藤貫首導師のもと世界平和、国土安穏、疫病退散、東日本大震災早期復興、家内安全、身体健全、上安全、心願成就、その他御信徒皆様の諸願成就を祈り、新春特別開帳大護摩供が厳修されました。

令和五年癸卯(みずのとう)を

は感染症対策の為、大本堂への入場制限を行い、有喜閣で行っている新年の挨拶(おとそ膳)を中心とした、また信徒休憩所の設置、またはお護摩受付所やお札場での飛沫感染防止ビニールガードの設置など様々な対策を実施致しました。

御参詣の皆様におかれましては、マスク着用や間隔をあけて整列しての参拝、または分散参拝などの感染症対策にご理解ご協力を頂きました。誠に感謝申し上げます。

今年こそコロナウイルス感染症問題が終息へと向かい、御信徒皆様にとって、令和五年が希望に満ちた輝かしい年となるよう心よりご祈念申します。



年の早春に開削されたものである。滝の脇には開削の由来と尽力した関係者を顕彰する山主秀興の筆による文面が刻まれた石碑が残る。

先の旧家の日記に「正月中頃より高尾山滝、魯石殿施主にて出来」（三月一三日）と記されている。つまり、一月の中旬に着工して約一ヶ月の後に完成を見たということである。植田魯石すなわち植田十兵衛元政は八王子千人同心組頭であり、蘭方医として八王子宿の町医者であった。日記の主は同じ千人頭山本組の同心であつたので、「魯石殿」という書きぶりとなつたのだろう。碑文には、飯縄大権現を敬神する魯石が峯尾氏・梅原氏以下一〇余名と相談して滝を開削し、それはあたかも天然の滝のようだと記されている。魯石の普段の信仰活動がどのようなものであつたかは詳らかでないが、医者としての人望

と宿内での盛んな社交関係があつたことは想像に難くない。滝の完工とほぼ同時に同月二十五日から飯縄大権現・薬師如来の開帳が始まった。

この年の三月二五日には、あらためて滝開きの儀式があつたとされる。その日の日記には「参詣たくさん」と記され、大勢の参詣者が取り巻く中、執行された様が目に浮かぶ。恐らく、「乙亥春三月」の年次がある先の石碑もこの時に設置、披露されたものであろう。碑文には「飯縄大権現を詣でる遠近の男女がここで沐浴潔斎し、(清滝開削の)偉業を讃えた」とある。ちょうど参道の入り口に位置し、参詣者が身を清める場になつたとのことだが、「遠近士女(原文)」というわずか四文字ながら、参詔者の属性が推察される。遠方はすでにこの時期には江戸や現在の埼玉県西部地域に護摩檀家が存在したことがわかつてお

## 開拓の盛況

日記には三月二日(弘

法  
權現社拝殿・幣殿の再建

り、女性の参詣者のあつたことは旧家の日記にも知人女性の参詣がたびたび記されている。江戸後期の紀行文には女性の参詣が特記されているが、人里に比較的近い低山とは言え、山中の寺院に女性が訪れることが珍しいことだつたのだろう。

という現象が誘引した出来事として興味深い。それから、鳥居を建てるにしても相応の費用が必要であろうから、村人の信心もさることながら、この時期、資金を集めめるだけの経済的余力が発生していたことが感じられるエピソードである。盛況を呈したこの開帳は、前々年における反対

法大師御影供)と四月八日(花まつり・积迦生誕祭)の両日に「おびただしき高尾参り」の文言が記される。開帳は四月六日から二八日まで期間が延長された。

この年の六月には、参詣路がわからず多くの旅客が道に迷っているので甲州道中から高尾山方面へ分岐する間道の入口に目印の鳥居を建立した旨、地元上糟田村・上長房村の村役人以下が支配の代官に願い出る書面が作成されている。鳥居が実際に建立されたかは不明だが、参詣者の増加

という現象が誘引した出来事として興味深い。それから、鳥居を建てるにしても相応の費用が必要であろうから、村人の信心もさることながら、この時期、資金を集めるのが経済的余力が発生していたことが感じられるエピソードである。

盛況を呈したこの開帳は、前々年における飯縄権現社・拝殿・幣殿の再建披露の趣旨があつただろうし、それに時期を合わせて清滝という新たな行場（名所とも言い換えられようか）が話題を呼び、また、開帳場は紀伊徳川家から寄進された戸帳・水引<sup>みずひき</sup>で莊厳させていた。参詣の人々は時の権威である葵紋を目の当たりにすることになった。

拝殿・幣殿の再建にはその費用を工面する必要があつただろうし、清滝の開削についても植田魯石らの尽力があつたにしても、人造の滝を作るなどということは、短時日内に実現することでは

戸帳は仮像を安置する厨子の扉を開いた開口部を縁取るように覆う幕のこと。水引(帽額)も仮前に飾る幕の一種。

『参考文献』『東京都指定有形文化財(建造物)高尾山薬王院飯縄権現堂塗装修理工事報告書』(一九九八)、馬場喜信『植田孟縉』(かたくら書店、二〇一二)

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

なかつただろう。紀州家からは二月付で寄進を承諾する旨の書状が届いているが、これにも事前の願い出などの手順が必要であつたはずだ。飯縄権現社の再興、清滝の開削紀州家による什物寄進という三つのトピックによる効果を見込み、秀憲・秀興によつて周到に用意された開帳であつたと言えるのではないか。

# 十七世秀興 1 宝暦の寺勢拡張

明治大学博物館  
外山  
徹



### 清滝と開削の由来を記した石碑

秀興の晉山

秀興のやや早い印象の隠居を考えても、人物を囁き望されての晋山であつたと想像される。

秀興の履歴については、享保二年（一七三六）付の印信から、相模国愛甲郡三増村（神奈川県愛川町）清徳寺を道場に教嶽という師僧から印可<sup>かく</sup>を受けたことがわかつてゐる。甘露山清徳

した後は高尾山へ移り、そこでその時点ですでに一定の経験を有する僧侶となつてゐたことになる。秀憲の数え五六歳の隠退は、その後の動向からするといかにも早い印象だが、これは外から招いた有為な人材に寺務を委ね、自らは身軽な立場で寺勢拡張に動くための措置ではなかつたかと思われる。

清滝の開削

前

ケーブルの駅名として  
よく知られる清瀧である  
が、現在は駅前広場の喧  
騒の陰にひつそりと佇ん  
でいる感がある。場所柄  
からしても天然の滝には  
まず見えないが、宝暦五

高尾山地先の上柄田  
村旧家の日記。寛延三年  
(二七五〇) 九月一日の  
条には「薬王院繼目に來  
る」との記述があり、こ  
れは一七世山主秀興の晋  
山を意味していると考え  
られる。その年の三月二  
五日にも「入院につき高  
尾山へ呼ばれ」とあるので、  
すでに二六世秀憲は隠居  
を決め、新たに山主を迎  
えることを村人へ伝えて  
いたのだろう。

秀興の晋山

後に権僧正といふ江戸  
期以前における歴代山主  
の中でも最高位に補任さ  
れることになる秀興は、  
秀憲のやや早い印象の隠  
居を考えても、人物を嘱  
望されての晋山であつた

寺は古義真言宗津久井  
葉山島村東林寺末の古  
刹である。薬王院文書に  
残つてゐる複数点にわた  
る教嶽発給の印信類は、  
秀興が携えてきたものと  
いうことになる。

清徳寺における印可は、  
高尾山晋山をさかのぼる  
こと一四年前のことであ  
つた。晋山の前年に起  
草された高尾山縁起に秀  
憲が弟子の秀興と相談し  
たがあるので、清徳寺で  
修学の後か、あるいはさ  
らに上方の本寺にて修学  
した後に高尾山へ移つて  
来たということになるが、そ  
の時点すでに一定の  
経歴を有する僧侶となつ  
ていたことになる。秀憲  
の数え五六歳の隠退は、  
その後の動向からすると  
と考えられよう。

三) の飯繩権現社(飯繩  
権現堂) 拝殿・幣殿の  
再建がある。棟札が現存  
することから、建物自体  
を新規に建てたものと考  
えられる。当初の建立か  
ら二三年目は、老朽化に  
よつて大きく損壊した  
か、あるいは建物自体の  
規模を大きくするため建  
て直したのかもしれない。

飯繩権現社 拝殿・幣  
殿再建の二年後、宝暦五  
年からはがぜん高尾山信  
仰活性化の様子が史料上  
に目立つてくるが、その  
助走期間として相応の時  
日が必要であつただろう  
から、秀興への山主交代  
は新たな寺勢拡張に踏み  
出すタイミングであつた



花材：レリア、寒竹、オーガスター

物事の善悪は時代によつて変わるものですが、どの時代であつても善悪の境界線をはつきりとさせようとしてきました。古代から現代にいたるまで、時の権力者により善悪の基準は変わりながら、様々な法律や規則となり、共同体内で受け入れられて秩序を保つてきました。ただし善悪というものは一概に線引きすることが難しいものです。極端ですが、善とはある人、ある共同体にとって都合のいいもの、逆に悪とは都合の悪いものと考えられるでしょう。我々が人間社会で生きている上で、自分だけで善悪を判断して行動することは難しいものですが、判断を他者にだけ委ねず、自分で考え、行動に責任を持つことを忘れてはいけないでしょ。

**いろは 天狗の落し文** (25)

何時のせだつて  
生きていくには  
大事です

ふ 善悪けじめ

物事の善悪は時代によつて変わるものですが、どの時代であつても善悪の境界線をはつきりとさせようとしてきました。

古代から現代にいたるまで、時の権力者により善悪の基準は変わりながら、様々な法律や規則となり、共同体内で受け入れられて秩序を保つてきました。

ただし善悪というものは一概に線引きすることが難しいものです。極端ですが、善とはある人、ある

共同体にとって都合のいいもの、逆に悪とは都合の悪いものと考へられるでしょう。

我々が人間社会で生きている上で、自分だけで

善悪を判断して行動することは難しいものですが、判断を他者にだけ委ねず、自分で考え、行動に

責任を持つことを忘れてはいけないでしょ。

## いけばなの心(36)

華道教授 佐藤 宗明

今回は『寒竹』を使用した作品をご紹介します。

寒竹という名前は寒さに強い竹ということでなく、秋から冬にかけて筍が生えてくる事から名付けられたものです。幹は太くなつてもセンチメートル程度にしかならず、冬に細くしなやかな竹を伸ばすの

で、お正月の風情を出します。この作品はレリアといふ蘭の動きに合わせて寒竹を多く入れる事で、しなやかさを強調しました。花形は寒竹のしなやかさ、伸びやかさを最大限に表現するためには生花新風体で整えま

した。寒竹もレリアもインパクトとしては若干物足りなく感じたので、オーガスターの葉を後方に配置しました。オーガスターは、正面から見ると葉の裏側が見える形で配置しています。一緒に生ける花材や作品全体の雰囲気に応じて自由な感覚で花材をできるのは生花新風体で作品を制作するときの楽しみの一つです。

## 大北斗供養(星まつり)

十二月二十一日～二十二日

昨年の十二月二十一日から二十二日にかけて、大北斗供養(星まつり)を厳修致しました。星まつりとは、皆様に巡り来る九星に祈りを捧げ、災厄を除き福運を招く祈祷で、冬至前日の夕方に開白し、冬至の朝に結願を迎えます。

佐藤貫首導師のもと、山内僧侶総出にて、御信徒皆様の除災開運を祈願すると共に、各位の諸願成就を一心に御祈念致しました。



## 初甲子大黒天祭

一月六日(金)



八王子市 佐宗 佐宗  
クコの木 奉納者御芳名  
(順不同・敬称略)

## 日本遺産の歴史を訪ねて 外山徹先生講演会

十二月四日(日)

去る十二月四日、高尾山報に「高尾山年代記」を連載中の外山徹先生が、日本遺産の歴史を探訪する「明治大学博物館の外山先生が案内探訪ツアー(主催・八王子観光コンベンション協会)」の講師として高尾山を訪れました。

このツアーでは、日本遺産「靈氣満山 高尾山」の構成文化財である高尾山内を外山先生が案内し、薬王院の有喜閣において、高尾山の歴史や史跡などについて講演されました。



高尾山と日本遺産の関わりについて講義する外山先生

# 觀音菩薩の宗教

(62)

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 百濟觀音

前号では百濟の滅亡に際し、日本が百濟救援の軍を派遣した船中に観音像が祀られていたとする説を紹介した。『日本靈異記』などの伝えるところにより、日本の舟に安置されていたのは今日水難救済の観音像が祀られた実例が見られるが、古代史家の倉西裕子は、百濟救援軍の舟に安置されていたのは今日言うところの百濟觀音ではないかと推測した。限られた資料の中、実証は今後に俟つところが多いが、興味深い説である。

百濟觀音は、特異な像容の仏像として知られている。以下、本号では百濟觀音の形態的特色を概観し、飛鳥時代の觀音信仰の一端を見るこ

としたい。

まず、百濟觀音像の全體像を見てみよう。上に「特異な」と記したのは、百濟觀音がその他の多くの仏像と像容が異なるからである。一般的に日本人が思い浮かべる典型的な仏像は、平安期の定朝様であろう。定朝が制作した平院鳳凰堂の阿彌陀如來坐像（國寶）は、長く日本の仏像の典型となり、阿彌陀如來に限らず今日各家庭に祀られる仏壇の本尊の源流ともなってきた。こうした仏像に比し、百濟觀音は種々の面で大いに相違する像容を有している。以下に百濟觀音の美術上の特色を記し、筆者の論評を付して考察してみよう。

百濟觀音の第一の特異性は長身・瘦身型という正面から見ることを前述した仏像は、飛鳥大佛や法隆寺の釈迦三尊像において「藝術的慾求に應じようとしたと主張した」（同前）。

正面から見ることを前述した仏像は、飛鳥大佛や法隆寺の釈迦三尊像に典型的に現れる鞍作止利が作った、いわゆる止利派のそれである。止利派の仏像は北朝様式あるいは北魏様式の流れを汲むとされ、正面から見るとかすかに微笑をたたえたアルカイック・スマイルを特徴としている。アルカイック・スマイルは元来、紀元前六世紀を中心とした古代ギリシャの彫刻に用いられた術語であるが、美術史家らによつて止利派の仏像にも当てはめられ、高校教科書にも載るようになった。また、止利派の仏像は正面からの礼拝を考えられており、側面觀では造り出し、側面觀では裏し、嚴肅な姿勢」を想起だけ「自由の手腕を發揮」しようとして造られたと推測した。これを

像として造られていることになる（倉西裕子、前掲書、一六〇~一七〇頁）。飛鳥時代において、非現実的な八頭身の百濟觀音が全身を細長く見せていることによる。百濟觀音の頭部と全身は一対八すなわち八頭身で、当時の他の仏像が一对六であることから比較すると、極端に頭が小さいことになる。昭和二八年、アメリカにおけるミス・ユニバースで世界三位に選ばれた日本人の伊藤絹子以来、日本では好んで八頭身美人と言われるが、現実の人類で八頭身はほとんどいない。また、八頭身という英語もなく、顔の小ささが美の基準になることも世界的には稀である。反対に日本の歌舞伎役者などは大きな顔を良しとする伝統もあった。

〔矢張り普通の意味に於いては釣合の悪い、體

自らを「百濟觀音の崇拜者」と告白しながらも、百濟觀音の「ヒヨロ長い像」に厳しい見解を述べている。若干長いが引用してみよう。

「矢張り普通の意味に於いては釣合の悪い、體

像として造られていることになる（倉西裕子、前掲書、一六〇~一七〇頁）。飛鳥時代において、非現実的な八頭身の百濟觀音が作られた理由は明らかでない。日本考古学や美術史のパイオニアのひとりである濱田青陵（耕作）は、自らを「百濟觀音の崇拜者」と告白しながらも、百濟觀音の「ヒヨロ長い像」に厳しい見解を述べている。若干長いが引用してみよう。

〔矢張り普通の意味に於いては釣合の悪い、體

側面觀を想定していないことは明らかである。これに対し、百濟觀音は南朝様式の系統に属するとのされ、正面のみならず側面や背面から見ても拝觀に耐える造りがなされていて。止利派の釈迦如來像の衣が厚手でずしりとスタティック（静的）なのに對し、百濟觀音の衣は薄手で側面に流れるように長く垂れてダイナミック（動的）である。明らかに正面以外のアンダルから見ることを想定した表現といえよう。百濟觀音の衣について倉西裕子（前掲書）は、

書、旧版一三頁）は、百濟觀音を見る人は、水瓶を持つた右腕（實際は左腕。他所では正しく書かれているので著者の誤記であろう）金岡注）と前に突出した左右両方の側面から眺めなければならないとしている。

このほか美術史家らがしばしば述べるのは、北魏様式や止利派の仏像が男性的で厳しさを有する一方、南朝様式や百濟觀音が女性的で柔軟といふことである。ジェンダーが多様になつた現代、男女の二者择一のみで分類することには異論も出ようが、法隆寺の釈迦如來が正面を見据えてずしりと構える表情と体躯に男性らしさを見、百濟觀音の側面の曲線と華奢で嫋（あや）かなる姿に女性らしさを感じる点には、多くの人が肯定するであろう。

百濟觀音は特異な像

容をもつて人々に讃えられながらも、今なお宗教的・歴史的に多くの謎に包まれている。その謎の一点一点が飛鳥時代の觀音信仰、ひいては飛鳥仏教の要諦を伝えていることはまちがいない。

百濟觀音像（百濟觀音）（模造）東京国立博物館蔵。昭和八年。濱田青陵（前掲）



釣合とも見える『プロポーション』のうちに、却つて一種特殊の美を感じることは、デルフィの馭者の場合と同一である」（同）。

長身・瘦身型と併せ、百濟觀音の像容の特色は、しばしば正面觀と側面觀という術語によつて分析されてきた。正面觀とは文字通り仏像を真正面から見たときの姿で、側面觀は横から見たときの姿である。濱田によれば、百濟觀音は「必しも繪畫の如く、正面から見ても無く、或は半側面から、或は正側面から乃至は背面からも鑑賞せられる可きものであることを能く了解」（同、一〇〇頁）。新版一一一二頁）して造られていると考えた。さらに、正面觀では「伝統的な形を踏襲し、嚴肅な姿勢」を造り出し、側面觀ではで

見ただけ「自由の手腕を發揮」しようとして造られたと推測した。これを

その意味は不詳と記している。また、

正面のみに付けられ、脇侍像も背面には何も造られていない。これらの

その日も畠仕事を終え家に帰ると夕餉を済ませ直ぐに深い眠りに入つた。するととな、枕元に坊様が現れてな、「忠兵衛よ！来年は七味、いや八味唐辛子を江戸で売りなせい」と言い終えると、スースと消えていつたと。忠兵衛は朝起きると母に、「おつ母よ、夕べは坊様が夢に出てな、来年はとんがらしの種を蒔けちゅうんだよ。正夢かもね、やつてみるべえか」

た薬味になる胡麻、蜜柑の皮、青海苔、紫蘇、麻の実、山椒、芥子と唐辛子の実を磨り潰し、江戸に売りに行つたつて。柳行李には唐辛子と八味がそれぞれの木箱に入つていたと。

江戸日本橋に着くと、「ハーハー買つてちようだい！ 日本一辛え八王子八味」とんがらしだよ、風邪も引かねえよ」と売り出したつて。するとな、信州と上州から来た唐辛子屋も売り出して、三人の唐辛子は夕方までに全部売り切れたと。

するとな、信州の唐辛子屋が、「お前さん方どうだね、そこの蕎麦屋で誰の唐辛子が一番辛えか比べっこしべえか」そう

とやつちまつたんだよ。  
そしたらよ、隣の若い客  
の箸置きや薬味の入った  
小皿が飛んで行つた。  
男女の客が驚いている  
最中、今度は上州の唐辛  
子屋が自分のとこの七味  
唐辛子をパラパラッと振  
りかけ、スルスルッと蕎  
麦が喉越しに来た時、「ハ  
クショーン、ハクショーン」と  
二回もしてしまつたと。  
今度は蕎麦蒸籠、汁徳利、  
蕎麦猪口、蕎麦湯の入つ  
た湯桶までも素つ飛んで  
いたとよ。蕎麦屋の夫婦  
もポカンと口を開けたま  
ま、膳の前に座り込んで  
いたと。

## ■健康登山者投稿作品 ■ 季節の絵手紙 「シロミノアオキ」

八王子市 栃谷玲子 様



# 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

## 十三段 良き友つくり趣味を持つ

良き友と交わり趣味を持つ、人生にとって必要なことです  
が、特に現役を退き実社会から離れた時にこそ、  
重要なものになってくることでしょう。これから生き  
がいのためにも様々なことに挑戦してみましょう。

「そもそもめばえいざる」  
草木萌動

二月二十八日～三月三日頃

「木の芽時」とも呼ばれ、文字通り多くの草木が一斉に土の中から芽吹く時期となります。

山々が瑞々しい若葉であふれるのはまだ先ですが、麗かな日差しがなる時間が長くなり、暦の上だけでなく、春の陽気を感じるようになるでしょう。

中国原産の野菜で、日本では冬の味覚として知られています。江戸時代には輸入されておりましたが、栽培方法が確立されたのは、大正時代頃になつてからでした。

現在では通年入手できる野菜ですが、本来は一月や二月が旬の食材です。鍋料理や漬物が定番となつております。

今月の風物詩  
白菜

高尾山の昆虫

160



樹液は別名昆虫酒場と言われ、多くの昆虫が集まることが知られ甲虫やチョウやガ、ハチ、ハエやアブ等メンバーは多彩です。

昼と夜とでは客層が違い、昼間はチョウ、スズメバチ、カナブンが常連で、夜間にはカブト、クワガタ、カミキリ、ガ等が目立ちます。高尾山の雑木林(ぞうきゆりん)でも例外ではなく、日中にカナブンが頭を押し合いへし合い樹液を奪い合つてゐる光景が見られます。

カナブンは大型のハナムグリで数も多く身近な虫ですが、体色がやや地味で脂ぎった唐金色をしていることもあつて、イマイチ人気がありません。

ところがカナブンは色彩変異に富んでいて、全身がエメラルドを思わせる緑が濃い個体やルビーのような深紅の個体も時に見られます。

そして極めて稀にサファイアのような青藍色の発色をした個体が出現し、驚かされます。まさに馬子(まこ)にも衣装で、地味なカナブンが一躍美麗種の仲間入りをします。

探して簡単に見つかるものでもありませんが、オオムラサキも見つかる高尾山の樹液の中でも、宝石

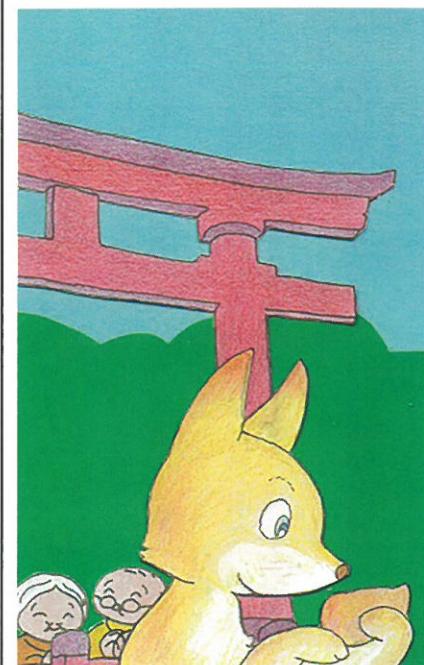
去年は孫の奈々が書いた。小学二年の拙い文字を見ながら、お爺ちゃんはご機嫌で筆を取っている。息子とお嫁さんが働いているので、奈々はしおりちゅうう家に来ていた。

でも、息子は沖縄へ転勤、もちろん奈々も一緒。

お正月には帰ってきたか

婆さん、お供え  
お爺ちゃんがどなつて  
いる。奉納旗が書き上  
がつたんだろう。油揚げ  
にご飯つめてるのに。  
大急ぎで仕上げないと  
ふたりでお稲荷様にお  
供えをして旗を立てる。  
早朝の庭は痛いほど寒  
く清々しい。霜が降りて

思つたら、「そうだな」つて  
お爺ちゃんがうつむいた。  
それから「取つとけよ。  
昼も夜もおれが食うから。  
早起きして作つたんだから。  
食うのは簡単だけど、  
作るのは大変だからよ」  
と言う。  
わたしは変な顔をして  
たんだろう。お爺ちゃんは



おめつねやま

おはなー散歩道

町田市  
大澤桃代

まつたくお爺ちゃんと  
きたら、我が連れ合ひな

「初午に油揚げ煮て稻荷  
すしをつくれ」なんて「昭

たくなる長年一緒にいるけど住んでる世界が違うの。稻荷様があるばつ

だよ。腰と膝が痛いのに。

賤に合れや 目録一卷 紹  
の旗を書いてるんだから  
つき合つてあげるけど。

た。小学二年の拙い文字を見ながら、お爺ちゃんはご機嫌で筆を取つてゐる。息

るので、奈々はしおつちゅう家に来ていた。

勤、もちろん奈々も一緒。  
お正月には帰ってきたか

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。御護摩修行とは、護摩木という特別な薪まきを大導師が御護摩の炎ほむかの中に投なげし、あらゆる煩惱を焼き淨きよめるために行われます。そして、御信徒の皆様の祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。御護摩修行を行つた方には、御護摩札ふみせが授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯縄大権現」とお唱え下さい。

**苗木奉納** 古来より高尾山の御信徒は、自分のお願ひが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納する習慣があります。今日でも、お杉苗奉納は続いており、参道の大杉原には、杉苗奉納者の芳名板が、板塀のように並んでおります。

# 高尾山藥王院の御護摩札

交通安全 (ステッcker) (車内用札)		御護摩供 室内安全 高尾一郎殿		御護摩供 室内安全 高尾次郎殿		大護摩供 室内安全 高尾三郎殿		奉納大護摩供 室内安全 高尾五郎殿		特別大護摩 30,000円以上		開帳大護摩供 室内安全 高尾八郎殿		特別開帳大護摩 100,000円以上		
(小) 中15.5×長12.5cm	最大巾8.0×長35.5cm	最大巾8.5×長37.7cm														
(大) 10,000円 (中) 5,000円 (小) 3,000円	お護摩 3,000円以上	お護摩 5,000円以上	お護摩 10,000円以上													
お護摩札には年令・生年 月日等は入りません。	併願(二願意)は一万円 より受け賜ります。 します。	お願い事は一体一願意と お護摩の願事	(一) 内の略体を書き下さい	御 禮(礼)	心願成就(心)	入学成就(入)	安産成就(安)	良縁成就(縁)	当病平愈(病)	身体健全(体)	厄除(厄)	災難消除(災)	身上安全(身)	事業繁栄(事)	商業繁昌(商)	家内安全(家)
お護摩札には年令・生年 月日等は入りません。	併願(二願意)は一万円 より受け賜ります。 します。	お願い事は一体一願意と お護摩の願事	(一) 内の略体を書き下さい	御 禮(礼)	心願成就(心)	入学成就(入)	安産成就(安)	良縁成就(縁)	当病平愈(病)	身体健全(体)	厄除(厄)	災難消除(災)	身上安全(身)	事業繁栄(事)	商業繁昌(商)	家内安全(家)



祈大願成就 身体健全  
**高尾 登**

電話 ○四二二六六一一二二五  
FAX ○四二六六四二九九

大本山 高尾山薬王院 信徒部



**お知らせ**

高尾山では、御壇木御志納の申し込みを、お電話・  
ファックス等で受付けております。

「払込取扱票」を利用してもお申し込み頂けますよ  
う便宜を図りましたので、よろしくお願意申し上  
げます。  
また、火渡り祭の時にお名前を読み上げますので、  
フリガナの記入もお願意致します。  
尚、「払込取扱票」は、高尾山報助成金の振替にも  
ご利用いただけます。

「払込取扱票」でお申し込みを頂く際に、願意  
(お願意事)が未記入でご連絡がつかない場合、「身体  
健全」とさせて頂きます。  
また、火渡り祭の時にお名前を読み上げますので、  
フリガナの記入もお願意致します。  
尚、「払込取扱票」は、高尾山報助成金の振替にも  
ご利用いただけます。

# 新型コロナウィルス感染症終息祈願祭開催のお知らせ

3月12日(日)午後1時より 於・山麓祈祷殿大広場



「なで木」とは御本尊様の大慈大悲の御手であります。年齢・氏名を御記入の上、健康な方は益々壮健であるように、お身體に病の生じている方は、御本尊様を念じながら「なで木」でその患部を撫でさすり下さい。

高尾山火渡り祭において、柴燈大護摩供の護摩木として山伏により、

「なで木」は御本尊様の大慈大悲の御手であります。年齢・氏名を御記入の上、健康な方は益々壮健であるように、お身體に病の生じている方は、御本尊様を念じながら「なで木」でその患部を撫でさすり下さい。

高尾山火渡り祭において、柴燈大護摩供の護摩木として山伏により、

火中に供されることで、  
身体健全・息災延命を祈念して御本尊様よりお加持を賜り、病魔を滅する御加護をいただき

## 薬王院インスタグラム紹介

下記のQRコードか  
URLから  
検索ができます。



[instagram.com/takaosan\\_yakuoin/](https://instagram.com/takaosan_yakuoin/)

高尾山では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。  
これからも様々な写真や動画を沢山アップしていくので是非ともフォローをお願い致します。



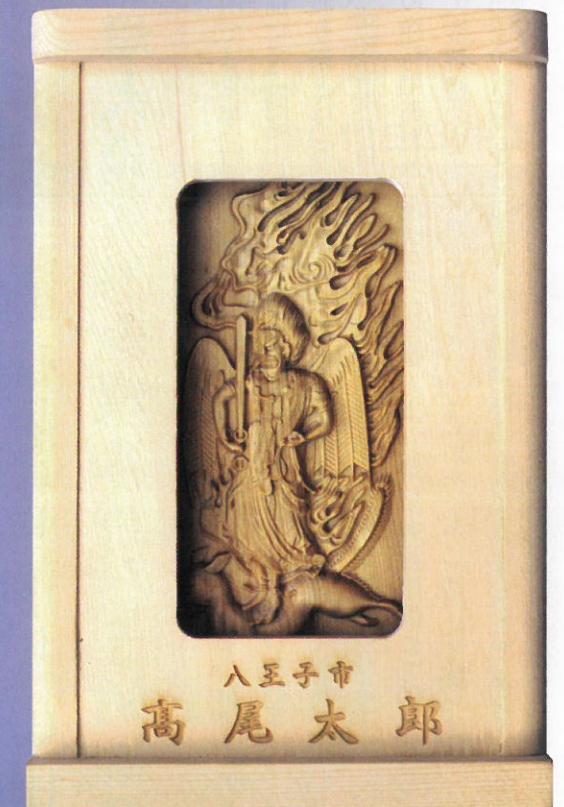
なで木料 一座二百円

御本尊・飯縄大権現様との御縁を深める  
大本堂内 結縁「内陣御納佛」奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯縄大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げています。

お申し込みになりますと、御納佛との尊い結縁のしとしてご芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しくご繁栄を祈念するものであります。

御納佛冥加料 一體 五萬円



高さ13.5センチ 横幅9センチ

## 『高尾山御宝曆』 令和五年版について

当山で発行しており  
ます『高尾山御宝曆』の  
令和五年版につきまし  
て、記載内容に誤りが  
ありました。

『高尾山御宝曆 令和五年版』  
3 頁下段 厄年早見表 女性後厄の年

	前厄	本厄	後厄
女性	平成4年	平成3年	令和2年

	前厄	本厄	後厄
女性	平成4年	平成3年	平成2年

十有二年憇怡移  
重拜長老大導師  
百有二十歲崇拜  
感淚記起昔日思

十二年が無為に移ろぎ、

十二年振りに長老大導師を拝す…  
百二十歳迄の寅歳・寅月(二月)・  
寅日・寅刻(午前三時)に  
あと何度拝み禱れるか…

感淚記起昔日思

昔日の思ひを想起すれば  
ただ感涙あるのみ…

想はるる  
一茶お参籠  
こもり  
海の花

毎日のお護摩奉修時間

(11月1日～4月14日まで)

午前6時00分

" 9時30分

" 11時00分

午後0時30分

" 2時00分

" 3時30分

ご講中・団体等御相談下さい。



大般若經を守護する十六善神の図

発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115(代)  
FAX(042)-664-1999  
発行人 犬山秀康  
編集人 菅井倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円

下記のQRコード  
から高尾山薬王院  
のホームページに  
アクセスできます



高尾山薬王院ホームページ  
<https://www.takaosan.or.jp>

三月行事日程  
一日～七日

聖天秘供(聖天堂)  
十二日、二十四日

八日  
弁天様御縁日

十四日、二十七日  
仏舎利詣り(仏舎利塔)  
御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

二十一日  
飯繩様御縁日  
神徳報謝百味飲食供  
（九時大本堂）

二十五日  
月例写経会  
(十三時山麓不動院)

二十六日  
高尾山とんとんむかし  
「語り部の会」  
(十二時半山麓不動院)

型コロナウイルスの感染  
予防を図る為、境内各  
所への消毒液設置・換気・  
職員のマスク着用などの  
対策を実施しております。  
御来山の皆さまにおか  
れましても、手洗いや咳  
エチケット等の予防対策  
情報に十分留意されます  
ようお願い申し上げます。

◆お知らせ

高尾山薬王院では、新  
型コロナウイルスの感染  
予防を図る為、境内各  
所への消毒液設置・換気・  
職員のマスク着用などの  
対策を実施しております。

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御  
加護に感謝するために、御縁日である二十一日  
に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若經  
六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り  
行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、  
ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の  
御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も  
受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)  
御志納金 一〇 三千円以上



上  
げ  
訂  
正  
(誤)  
所沢市 丸田 敏美  
茲に謹んでお詫び申し  
上げ、訂正致します。

神徳報謝百味飲食供  
御志納のおすすめ

『高尾山報』十二月号  
十九ページ上に掲載いた  
しました『高尾山報助  
成金志納者御芳名』に  
て、御芳名に誤りがござ  
いました。

訂正とお詫び